

フィールドワーカーへの一歩

◆下調べをやっておこう

皆さん「フィールドワーク共生の森もがみ しおり」を読んだと思います。ここでは、更に具体的な取り組み方について紹介します。

1. 事前学習について

『共生の森もがみプログラム案内』を読み返し、参加プログラムについて復習しましょう。特に「目的・概要」には地域の方が参加者に何を望んでいるかが書かれているので、しっかり理解してください。また、「しおり」で詳細なスケジュール（10頁）も良く理解し、活動のイメージを持っておいてください。すでに手元にある情報をきちんと押さえることが勝利の鍵です。

2. 基本的な情報の収集

事前学習のため、インターネットを活用してプログラムに関連する情報を集めましょう。たとえば、自治体や観光協会のwebサイトには、その地域の歴史や文化について情報が提示されています。自分の参加するプログラムが実施される地域のwebサイトを訪れ、丹念に関連情報を探してみましよう。書籍や新聞記事の情報も見つかります。

調べる中で、気になる単語、キーワードが見つかると思います。その単語を手掛かりにさまざまな検索エンジンサイトでキーワード検索をしてみましよう。

たとえば、「想」-Imagine (<http://imagine.bookmap.info/index.jsp>) で検索すると、多くの参考文献の情報が出てきます。この情報をメモして「参考文献リスト」を作っておくと、中間学習や活動報告会の準備でとても参考になり、役立ちます。

3. グループメンバーで事前学習を共有

ウェブクラスに各自の事前学習と自己紹介を投稿しますが、更にチームワークを養うため、メンバーで連絡を取り合い、**実際に顔を合わせて**事前学習について共有し合うなど、具体的にグループ学習に取り組む機会を作ってみてください。メンバーの顔と名前、どんなことを考えているのかを頭に入れて活動に入れば、フィールドワークが有意義な内容になることは間違いありません。

◆フィールドワークでは…

フィールドワークで最も重要なことは、第一に安全です。初めて訪れる場所には、どんな危険が潜んでいるかわかりません。安全な活動のためにも、現地の方の話をよく聞いて行動しましょう。

1. 確認せず、発見する

下調べで収集した情報をもとに、地域の人たちや講師の方々の話を聞いてみましょう。そして、お互いの情報を共有し合いながら、知見を深めましょう。最初に調べた情報から、一歩踏み込んだ情報にたどり着くことができるでしょう。フィールドワークは、既存の情報を「確認」しに行くのではなく、できるだけ多くのことを「発見」する機会です。見たことや聞いたことを通して、自分の考えを発展させてみましょう。

2. 会話を楽しむ

初めて訪れる場所では、戸惑いが付きものです。特に、初めて会う人とお話するときは、どんな人でも緊張します。**はじめは大きな声で挨拶をしてみましょう**。そして、少し緊張がほぐれてきたら、調べてきた情報をもとに、簡単な質問をしてみましょう。さまざまな人から話を聞くなかで、共通点や差異点に気づくと思います。その「気づき」を大切にしましょう。**このような経験は、自分とは異なる考えの人に出会うだけでなく、自分自身の視野を広げる機会にもなります**。会話を楽しみましよう。

3. 記憶せず、記録する

年齢に関わらず、人は忘れる生き物です。メモを取るくせをつけ、見たことや思いついたことは、なんでも書き込みましょう。また、人の話を聞くだけでなく、その場の雰囲気を観察したりすることも重要です。フィールドワーク中の経験は、すべてが「情報」となるので、意識的にメモすることを心がけましょう。

記録はしたけれど、何を書いたか自分でもわからない場合があります。必ず、日付と場所の情報を書いてから、メモをとりましょう。これらのメモは記録ノートを作る際の大切な材料になります。

◆フィールドから戻ったら

フィールドワークから戻ったら、記録ノートを整理しましょう。なにごとにも書き留めておかなければ、すべて忘却されてしまいます。個人の記録はもちろん、共同作業を通して収集した記録はとても重要です。しかし、未整理の記録は「雑多な情報のかたまり」です。記録を整理することによってはじめて、活用可能な情報になるのです。

1. 記録を整理してみよう

記録したデータは、短い文章にして整理してみましょう。また、写真や音声録音なども誤ってデータを消してしまわないように、USB や PC などにデータを移しておきましょう。その際、記録した日付や場所の情報が分かるように整理しておきましょう。

2. 感じたことを言語化してみよう

感じたことを自分の言葉でまとめてみましょう。記録ノートの情報をより具体的なデータとして残すことができます。また、一緒に活動した仲間と語り合うことを通して、自分の考えを修正したり、発展させたりできるでしょう。こうした作業を繰り返すことによって、主観的な考えをより客観的に捉えるスキルが身に付き、考察力を高めます。

3. 考察したことを互いに共有してみよう

フィールドワークで得た知見を、現地の人びとや講師の方々に聞いてもらいましょう。そのためには、「共有するための情報整理」が必要です。その際、主観的な考えを客観的に捉えながら、整理してみましょう。また、このような客観的な視点は、生活者である現地の人びとにとって有益な情報となるだけでなく、みなさんが生活する地域を見直すための重要なヒントにもなるでしょう。